

令和7年度 野庭地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

<地域の現状>

野庭住宅地区、野庭団地地区の高齢化率はそれぞれ5割を越えました。高齢者独居世帯・高齢者世帯数も25～40%にも及んでいます。認知症高齢者の増加、老老介護、老障介護、8050問題など日常生活においても多種多様な問題が発生しています。また、子供から高齢者まで引きこもりによる社会参加の機会喪失により問題を抱えた世帯の把握が難しくなっているなど、小さなコミュニティ(町会、フロア、階段単位など)での見守り・助け合いが求められています。地域ではその仕組みづくりに取り組み機能し出していますが活動には地域差があります。複雑な事情を抱えた世帯のご相談に対しては、個人の支援に留まらず、関係機関、団体が連携した世帯全体の支援が求められています。

コロナ5類になって以降は地域活動は活気を取り戻しましたが、活動の担い手不足が課題です。一人の担い手が、複数の役割を担っていることも珍しくありません。世代交代の人材発掘も求められますが、若者やお元気な高齢者の方々が活躍出来る地域活動の場が出来てきています。

<今後の方向性>

- ・総合相談対応の充実(関係機関、団体との連携強化)
- ・地域包括ケアの推進(見守り事業、介護予防・生活支援事業、地域支援者サポート等)
- ・地域活動活性化のための支援
- ・港南ひまわりプランの推進

新規 継続

—具体的な取組内容—

■ 必要な情報を必要とする人に届けるために、情報発信に力を入れます。
 ・ケアプラザの活用方法を伝える出前講座をはじめ様々な出前講座を開催することでケアプラザのインフォメーションする機会を増やします。
 ・ケアプラザ協力医による「医療講座」を地域住民対象に1回/月程度開催し医療情報を発信、交流の場とします。
 ・ケアプラザホームページに地域の生活支援情報を掲載します。
 ・野庭エリアで活用できる「のぼ生活お役立ち情報通信(ケアマネジャー向け)」を作成、発信致します。
 ・港南区配食事業者一覧を更新します。

■ 子育て支援事業・権利擁護事業に力を入れます。
 ・はっぴ〜[◎]たいむNOBA事業(ケアプラザの子育て支援事業の総称)を様々な内容で展開していきます。
 ・不登校の学生たちが安心できる場として関係機関が連携してケアプラザを会場に定期的な食事を開催します。
 ・成年後見制度の普及啓発と共に成年後見制度の申し立て手続きの支援をいたします。
 ・高齢者虐待防止のための普及啓発と共に、介護者の集いを開催し介護者の方の支援にも力を入れます。今年度は介護に役立つ勉強会や介護者のリラクゼーションとして「椅子に座ってできるヨガ」を開催します。
 ・終活支援としてエンディングノートやもしも手帳の活用が出来るよう講座を開催します。

■ 野庭地域において認知症の理解や支え合いの輪が広がるよう普及啓発に力を入れます。
 ・「NOBAメイトの会」と連携し、地域の方や小中学生を対象に認知症サポーター養成講座を開催します。また野庭ふれあいまつりで多世代の方を対象に認知症啓発活動を行います。
 ・認知症の方や家族のサポートを目的としたネットワーク作りとして今年度よりチームオレンジ事業を展開します。認知症カフェをキャラバンメイトの方や地域の介護施設と協力して開催します。VR研修等交流会や勉強会を通じ普及啓発にも力を入れます。

■ 野庭エリアの地域活動の活性化や見守り体制強化のための支援に力を入れます。
 ・地域のサロンと連携し身近な場所で介護予防講座を開催します。ケアプラザを活用した事のない方や移動が大変な方にも介護予防に取り組むきっかけとなるよう働きかけます。また取り組みが継続できるよう支援します。
 ・各地域では住民が主体となり工夫して見守り活動をされています。住民主体の活動をする上で個人情報の取り扱いは大切です。そのような研修の要望があれば支援をさせていただきます。
 ・ボランティア登録を推進し、やりがいを感じて活動できる環境づくりをするため、近隣施設や関係機関と連携し、情報共有、調整を行います。

■ 港南ひまわりプラン及び地区別地福計画を推進いたします。
 ・野庭住宅、野庭団地、永野地区の支援チーム会議に参加し、情報を共有する中で地域の方々への細やかな支援に努め、第4期ひまわりプランの推進、第5期ひまわりプランの策定に向け取り組みます。

◆ 事業報告・事業実績評価

□ 振り返り

「必要な情報」を「必要としている人」に届けるため、今年度は地域への出前講座として福祉用具事業者とともに出向き「福祉用具を実際に触ってみよう！使ってみよう！」という内容で実際に体験をして頂き好評でした。またケアマネージャー向けに「のぼ生活お役立ち情報通信」として令和7年10月より始まったLSA事業(横浜市高齢者用支援住宅等生活援助員派遣事業)について情報提供を行い、野庭エリアの高齢者を支援する事業について積極的に発信いたしました。

子育て支援事業として今年度より始まったNPO法人の主催する「不登校中学生の居場所づくり」の事業を中学校や区社協とともに支援させて頂きました。

高齢者の権利擁護事業として「椅子に座ってできるヨガ」講座を年に4回開催し、介護をされている方の健康づくりやリラクゼーションにも力を入れて行いました。

今年度より野庭エリアの介護保険事業所やケアプラザ協力医、キャラバンメイトの協力を頂いて認知症やそのご家族を支えるネットワーク事業「チームオレンジ」が始まりました。認知症の方が感じている世界を体験するVR研修、協力医による認知症の理解を深める講座、介護保険事業者による「のぼカフェ」の定期開催、カフェでは事業所のスタッフやキャラバンメイトの方に見守られながら認知症のご本人が生きがいであるボランティア活動をされるなどご本人やご家族を支えるつながりができてきました。

地域の自治会と連携し地域で介護予防講座を開催しました。開催後自治会で誰でも参加できる体操教室を立ち上げて定期的に開催したいのご希望があり、次年度の支援につないでいきます。野庭エリアの介護保険施設からは地域住民との関わりを深めたいご希望がありました。ケアプラザとして地域のボランティアの方がやりがいを感じて活動できる環境づくりや地域団体とのネットワークの構築に向け、これらのご意見を反映させ積極的に取り組んで参ります。

地域住民が中心となり区役所、区社協、ケアプラザが協働で取り組んでいる港南ひまわりプラン及び地区別地福計画は第5期の策定を見据え、地域の方々が開催される集まりに積極的に参加し丁寧に支援をさせて頂きました。次年度も野庭地域の福祉保健の拠点として役割を果たしていけるよう地域の皆様、各関係機関・関係団体と連携し個別支援、地域支援に努めて参ります。

□ 区からのコメント

今年度は「第5期港南ひまわりプラン(地区別計画)」の策定に向けて、アンケートブースの設置調整を行ったり、策定委員会やささネットの会議開催の支援を行うなど、地域の皆さんとともにご尽力いただき、ありがとうございました。

認知症支援については、とりわけ小学校でのサポーター養成講座は将来の地域福祉を担う子どもたちへの理解促進として重要であるため、講座や啓発活動の継続・強化をお願いします。また、キャラバンメイトの担い手確保についても工夫し、関心を持つ人々を巻き込みながら取り組みを進めています。相談体制については、地域住民から身近な相談先として信頼されており、相談対応も丁寧かつ適切で、必要に応じて関係機関へ円滑につなぐなど、専門機関としての役割をしっかりと果たしています。困難事例が多い中でも丁寧な引継ぎと高い専門性が発揮されており、ストレンクス視点でのケアプラン作成を今後もケアマネに促すことで、より質の高い支援が可能になると考えます。協力医による講座は住民と医療をつなぐ有意義な機会となり、地域での安心した生活づくりに寄与しています。広報誌も幅広い住民に効果的に情報を届け、地域全体への啓発を高めています。インフォーマルサービス情報の更新や研修企画など、地域で自立した生活を支える取り組みが進められており、配食事業者一覧やホームページ情報の整理も、住民が必要なサービスを選びやすくする点で有効であると考えます。地域ケア会議については、的確な会議運営により多様な意見が活発に交わされ、有意義なケア会議となった。今後も地域課題の共有と連携のため、継続的な開催が望まれます。